

日本産業衛生学会

近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会
(事務局 圓藤吟史)
〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3
大阪市立大学医学部環境衛生学教室内
F A X 06-6646-3160
発行責任者(地方会長) 堀口俊一

第43回 近畿産業衛生学会

主催 日本産業衛生学会近畿地方会
学会長 井口 弘 (兵庫医科大学衛生学教授)

日 時	平成15年11月8日 (土) 9:30~17:00	
会 場	兵庫医科大学 (兵庫県西宮市武庫川町1-1)	
	3号館 1階 3-1講義室 (第1会場・一般講演)	
	3号館 1階 3-2講義室 (第2会場・一般講演)	
	4号館 1階 4-1講義室 (第3会場・一般講演)	
	3号館 4階 3-3講義室 (第4会場・特別講演・シンポジウム)	
	10号館 10階 展望レストラン・リビエール (懇親会)	
一 般 講 演	9:30~11:42	
特 別 講 演	13:30~14:10	「化学物質の曝露評価」
		講師 河合俊夫 (中災防大阪センター副所長)
		座長 小泉昭夫 (京都大学大学院医学研究科教授)
	14:10~14:50	「化学物質によるヒトの発がん」
		講師 佐藤茂秋 (兵庫県立加古川病院長)
		座長 森本兼襄 (大阪大学大学院医学研究科教授)
シンポジウム	15:00~17:00	「不況下における企業労働者のメンタルストレス -- 過重労働、自殺、過労死 --」
		講師 守田嘉男 (兵庫医科大学精神科教授)
		三脇康生 (名古屋芸術大学助教授、精神科医師)
		藤原精吾 (あいおい法律事務所弁護士)
		座長 井口 弘 (兵庫医科大学衛生学教授)
幹 事 会	11:50~12:40	(10号館 2階 第1会議室)
評 議 員 会	12:45~13:15	(10号館 3階 第3会議室)
懇 親 会	17:15~	(10号館 10階 展望レストラン・リビエール)

学会開催にあたって

兵庫医科大学 衛生学教室
井口 弘

平成15年の第43回近畿産業衛生学会を開催させて頂くにあたり、ご協力を賜った方々並びにご参加下される皆様に謹んでご挨拶申し上げます。

ながびく産業・経済の不況が所謂リストラによる失業者や中小企業倒産の増加、更には派遣労働等の様々な雇用形態変化が嘗て経験しなかった多くの問題を産業衛生に生み出しています。労働者は過重労働、サービス残業のみならず様々なストレスを負っています。こういう状況下での学会開催が産業衛生学上の今日的課題の意義ある討論と情報交換の場になればと思っております。

午前の学会では、30題を越える一般演題が3会場に分かれて発表されます。演題はいずれも興味深いもので、メンタルヘルス、化学物質毒性、健康及び事故管理などの多岐にわたります。これらの発表では活発な討論が楽しみです。

午後は特別講演2題とシンポジウムが行われます。特別講演では、先ず有機溶剤を中心とした労働現場における「化学物質の曝露評価」について中央労働災害防止協会、大阪労働衛生センター副所長河合俊夫博士に、次いで全国民が関心を持つ「化学物質によるヒトの発がん」について、国立がんセンター在職時から神戸大学医学部衛生学教授に就任後も一貫してがん研究に取り組み、多

くの功績をうち立てられた現兵庫県立加古川病院長の佐藤茂秋先生にご講演いただきます。

特別講演に引き続き、シンポジウムを「不況下における企業労働者のメンタルストレス—過重労働、自殺、過労死—」のテーマで行います。シンポジストは労働精神衛生の臨床経験を多くお持ちの兵庫医科大学精神科教授守田嘉男先生、不況下でのリストラ問題について多くの企業を対象に調査研究していらっしゃる名古屋芸術大学助教授(京大・院、公衆衛生学教室非常勤講師)三脇康生先生、及び労働災害認定訴訟に永年携わってこられた「あいおい法律事務所」藤原精吾弁護士(3氏)です。各氏の専門的立場から問題提起と討論が行われます。学会参加の皆様方の積極的な討論参加をお願い致します。

シンポジウム終了後は、懇親会(於:兵庫医大10号館10階のレストラン、リビエール)に奮ってご参加下さり、親交を温めていただきたく思っております。

学会場である兵庫医科大学は交通至便な所に位置しております。学会に参加される皆様には、一望できる六甲山地、武庫川の深まりゆく秋の風景を楽しんでいただければ、大変嬉しく思います。

第43回近畿産業衛生学会プログラム

第1会場 (3-1講義室)

(9:30~10:06)

座長 吉永侃夫(京都大院・医・環境衛生)

- 101 コミュニティにおける産業カウンセラーの活動に関する一研究
～キャリアとメンタルヘルスをつなぐワークショップの試み～
○千葉征慶(富士通メンタルヘルスサービス部)
- 102 定期健康診断の問診票におけるメンタルヘルス関連項目の解析
○瀧本忠司¹⁾、大東正明²⁾ (¹⁾ダイハツ工業(株) 京都工場診療所、²⁾ダイハツ保健センター)
- 103 男性企業従業員の健康生活習慣の実践と健康に関連する心理特性との関連性について
○新池圓¹⁾、藤田大輔²⁾ (¹⁾(有)ファミリー・ヘルス・サポート、²⁾神戸大・発達科学)

(10:06~10:42)

座長 増井秀久(松下電器産業(株)ホームアプライアンス社PAVC社神戸健康管理室)

- 104 ライフスタイルと包括的健康度の唾液情報論的評価(第1報)
-唾液中ストレスマーカーへの間食摂取の影響-
○戸田雅裕、森本兼義(大阪大院・医・環境医学)
- 105 ストレスとライフスタイルに関する予防医学的研究(第8報)
睡眠時間・労働時間と職業性ストレスの関連性
○中山邦夫、森本兼義(大阪大院・医・環境医学)
- 106 某化学工場及び同附置施設研究所職員のストレスチェック
○土居珠紀、西村泰光、西池珠子、和田安彦、井口弘(兵庫医大・衛生)

(10:42~11:30)

座長 中山邦夫(大阪大院・医・環境医学)

- 107 暗所での検査業務に従事する派遣労働者にみられた、光てんかん様発作の事例
植杉成一郎¹⁾、○和田安彦²⁾、西村泰光²⁾、西池珠子²⁾、井口弘²⁾、¹⁾(医)社団 植杉医院、²⁾兵庫医大・衛生)
- 108 フッ化水素冷却液化タンク洗浄中に生じた急性死亡事故例について
○土手友太郎、河野公一、白田寛、清水宏泰、川崎隆士(大阪医大・衛生・公衆衛生)
- 109 インシデントレポートを用いた看護業務の検討と組織要因の分析
-6病院での比較検討-
○井上佳代子、吉永侃夫、小泉昭夫(京都大院・医・環境衛生)
- 110 産業衛生における危機管理のあり方
○湯木知史、吉永侃夫、小泉昭夫(京都大院・医・環境衛生)

第2会場 (3-2講義室)

(9:30~10:18)

座長 郷司純子(兵庫医大・公衆衛生)

- 201 ラットALDH遺伝子型におけるアルコール摂取傾向と肝障害についての検討
○馬露、二宮ルリ子、野崎潤一、郷司純子(兵庫医大・公衆衛生)
- 202 アスベスト気管内注入後のラット肺胞マクロファージによるTNF- α 、TGF- β 1産生能と多核巨細胞形成
○西村泰光、西池珠子、和田安彦、井口弘(兵庫医大・衛生)
- 203 重金属によるメッセンジャーRNA前駆体スプライシング制御の可能性
○李明鎮、北村圭子、綾木仁、西本啓介、西尾久英(神戸大院・医・環境医学)
- 204 血中に存在する多様な酸化変性リポ蛋白測定による血清リポ蛋白の質的評価
○小寫志穂、真柴新一、田端一恵、内田壺夫(京都医科学研究所)

(10:18~10:54)

座長 綾木仁(神戸大院・医・環境医学)

- 205 致死量以下でのMCA投与量と臓器障害について
-血液生化学的指標の検討-
○林さつき、土手友太郎、白田寛、清水宏泰、加藤順子、川崎隆士、河野公一(大阪医大・衛生・公衆衛生)
- 206 国内河川・湾のペルフルオロオクタン酸(PFOA)汚染の調査と様相
○原田浩二¹⁾、佐々木和明²⁾、齋藤憲光²⁾、吉永侃夫¹⁾、小泉昭夫¹⁾ (¹⁾京都大院・医・環境衛生、²⁾岩手県環境保健研究センター)
- 207 ナノテクノロジーを用いた光触媒による室内空気中アルデヒド濃度の低減化
○圓藤陽子¹⁾、池田浩己²⁾、宮崎竹二³⁾、圓藤吟史⁴⁾ (¹⁾関西医大・公衆衛生、²⁾関西医大・耳鼻咽喉科、³⁾大阪市環境科学研・労働衛生、⁴⁾大阪市大・医・環境衛生)

(10:54~11:42)

座長 島田泰明(兵庫産業保健推進センター)

- 208 コバルト粉体を取り扱う作業場における二次発じん曝露の調査結果について
○内橋秀子、城山康、道辻広美、大原昭男、山田誠二(松下産業衛生科学センター)
- 209 「アーク溶接工肺」の血清フェリチン値の増加について
○世良和明¹⁾、西尾久英²⁾、林千代²⁾ (¹⁾兵庫産業保健推進センター、²⁾神戸大院・医・環境医学)
- 210 尿中デルタアミノレブリン酸と血中鉛分布区分の比較
-Mauzerall Granic法とHPLC法の比較-
○味山友里子¹⁾、山内恒幸¹⁾、岩井利和¹⁾、杉田隆博¹⁾、清田郁子²⁾、圓藤吟史²⁾、河合俊夫¹⁾ (¹⁾中災防・大阪センター、²⁾大阪市大院・医・産業医学)

- 211 平井毓太郎教授による乳幼児鉛中毒症研究の今日的意義
○堀口俊一 (大阪市大・大阪産業保健推進センター)

第3会場 (4-1講義室)

(9:30~10:18)

座長 圓藤陽子 (関西医大・公衆衛生)

- 301 コンピュータを用いた新しい健診システム導入について
○加藤俊夫、小林伸行、石村重明、奥田武正、藪田良一、佐藤弘昭、小谷隆子、小淵啓子、杉原久子、鍋倉陽子、渡辺あゆみ、田坂律子 (三菱電機伊丹・赤穂地区統括事務所健康増進センター)
- 302 「職場血圧測定監視システム」を用いた職場血圧と健診時血圧との比較
○佐藤弘昭、加藤俊夫、小林伸行、石村重明、奥田武正、藪田良一、小谷隆子、小淵啓子、杉原久子、鍋倉陽子、渡辺あゆみ、田坂律子 (三菱電機伊丹・赤穂地区統括事務所健康増進センター)
- 303 体力測定に関する一考察
-20歳代の体力と最大酸素摂取量
○寺本敬子 (大阪市大院・医・産業医学)
- 304 新入社員の入社1年後の経過
○上原新一郎¹⁾、仲岡裕右¹⁾、圓藤吟史²⁾ (¹⁾大阪鉄道病院保健管理部、²⁾大阪市大院・医・都市医学)

(10:18~11:06)

座長 加藤俊夫

(三菱電機伊丹・赤穂地区統括事務所健康増進センター)

- 305 和歌山県下の事業所における喫煙対策の現状
○森岡郁晴^{1,4)}、宮下和久^{2,4)}、生田善太郎^{3,4)}、武田真太郎^{2,4)}、岡久雄⁴⁾ (¹⁾和歌山医大・看護部、²⁾和歌山医大・衛生、³⁾和歌山健康センター、⁴⁾和歌山産業保健推進センター)
- 306 企業における生活習慣病に対する健康教育の現状
○里村一成、三脇康生、野網恵、松田二三子、小松明日香、宮城島一明、中原俊隆 (京都大・医・公衆衛生)
- 307 勤労者における生活習慣と肥満度との関連について
○坂手誠治¹⁾、小林正嗣²⁾、村田和弘²⁾、阪上皖庸²⁾、木村隆²⁾ (¹⁾滋賀県立大・院、²⁾(財)近畿健康管理センター)
- 308 肥満とライフスタイル影響度の関連性 (第1報)
若年女性集団における肥満度とアディポネクチンの関係
○月野ホルミ、戸田雅裕、森本兼曩 (大阪大院・医・環境医学)

(11:06~11:42)

座長 里村一成 (京都大・医・公衆衛生)

- 309 大学病院研修医の睡眠時間構造
○中村賢治、埜田和史、北原照代、西山勝夫 (滋賀医大・予防医学)
- 310 大学病院勤務医師の労働時間
—生活時間調査結果—
○森田徳子、岡本希、佐伯圭吾、車谷典男 (奈良医大・衛生)

- 311 当事業所でのヘリコバクターピロリ除菌治療の影響についての検討
○増井秀久、大田真奈美、寺谷佳代 (松下電器産業(株)ホームアプライアンス社PAVC社神戸健康管理室)

11:50~12:40 幹事会 (10号館 2階 第1会議室)

12:45~13:15 評議員会 (10号館 3階 第3会議室)

13:30~17:00 第4会場 (3号館 4階 3-3講義室)

特別講演 13:30~14:10

「化学物質の曝露評価」

講師 河合俊夫

(中災防大阪センター副所長)

座長 小泉昭夫

(京都大学大学院医学研究科教授)

14:10~14:50

「化学物質によるヒトの発がん」

講師 佐藤茂秋

(兵庫県立加古川病院院長)

座長 森本兼曩

(大阪大学大学院医学研究科教授)

シンポジウム 15:00~17:00

「不況下における企業労働者のメンタルストレス
— 過重労働、自殺、過労死 —」

講師 守田嘉男

(兵庫医科大学精神科教授)

三脇康生

(名古屋芸術大学助教授、精神科医師)

藤原精吾

(あいおい法律事務所弁護士)

座長 井口 弘

(兵庫医科大学衛生学教授)

17:15~ 懇親会 (10号館10階 展望レストラン・リビエール)



会場への交通機関

1) 阪神電車本線

武庫川駅 (急行停車) 下車、
西出口 (神戸側) を出て徒歩5分
阪神三宮-----西宮-----武庫川-----阪神梅田
(特急) (急行) (急行)
(15分) (7分) (18分)

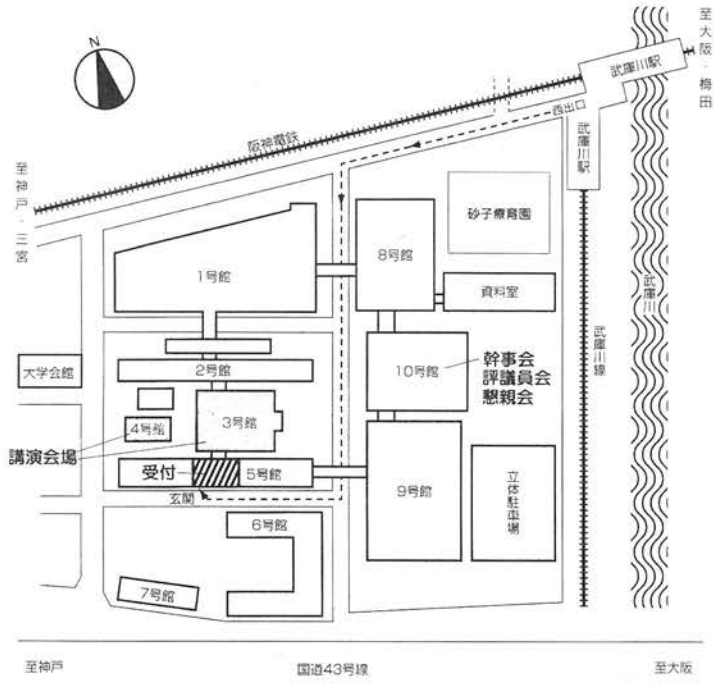
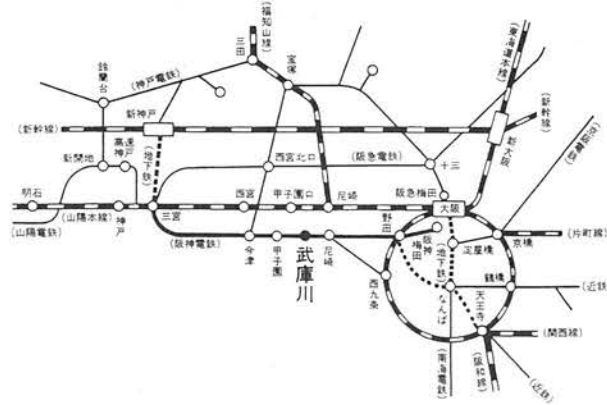
2) 阪神電車本線

甲子園駅 (直通特急・特急停車) 下車、
タクシーで約5分
阪神三宮-----甲子園-----阪神梅田
(特急) (特急)
(19分) (12分)

3) JR東海道・山陽本線

甲子園口駅 (普通電車のみ停車) から
タクシーで約10~20分
JR三ノ宮-----芦屋-----甲子園口-----JR大阪
(新快速) (普通) (普通)
(7分) (6分) (12分)

*有料駐車場 (100円/1時間) はありますが、
なるべく公共交通機関をご利用ください。



1. 参加の手続き

1) 受付は5号館1階玄関ホールで、午前9時00分から開始します。記入テーブルに備付の「参加カード」にお名前、ご所属等
をご記入の上、受付にお持ち下さい。

2) 参加費は日本産業衛生学会員2,000円、学会員以外は3,000円です。

2. 一般講演の演者の方へ

1) 1演題12分 (口演7分、質疑応答5分) です。

2) ノートパソコンを持参される方は、早めに受付前で接続確認・試写を行って下さい。

3) 学会誌「産業衛生学会誌」掲載用の抄録を予め400字以内にまとめ、当日、受付にご提出下さい。

4) 当日、資料を配布される場合には150部程度ご用意下さい。

3. 幹事会および評議員会

幹事会は10号館2階第1会議室にて11時50分から、評議員会は10号館3階第3会議室にて12時45分から行います。昼食を用意いた
しますので一部代金をご負担下さい。

4. 懇親会

学会終了後、10号館10階の展望レストラン・リビエール (宝塚ホテル運営) にて懇親会を行います。多数ご参加下さい。
会費3,000円で当日受付いたします。

5. 認定産業医および認定産業医を目指す方へ

本学会での特別講演とシンポジウムへの参加により、日本医師会産業医認定制度による基礎研修(後期)または生涯研修(専
門)3.5単位が認められます。当日、1階の受付でお申し出下さい。「研修参加票」をお渡ししますので、お名前、ご所属等
をご記入の上、シンポジウム終了後、4階会場出口の専用受付で申請して証明シールを受け取って下さい。

6. 産業看護職の方へ

本学会での特別講演とシンポジウムへの参加による日本産業衛生学会産業看護職継続教育 (実力アップコース) 単位認定を
申請中。

学会事務局 (問い合わせ先)

〒663-8501 西宮市武庫川町1-1 兵庫医科大学衛生学(9号館4階)

第43回近畿産業衛生学会事務局 和田 安彦

TEL/FAX 0798-45-6562 e-mail: hygiene@hyo-med.ac.jp (事務局用)

URL: <http://www.hyo-med.ac.jp/157.html/> (最新のお知らせ、設備詳細等を掲載)

学会当日の緊急連絡先 TEL 0798-45-6111 (大代表) : 「近畿産業衛生学会事務局」への電話である旨お伝え下さい。

報 告

第8回近畿産業医部会研修会を開催して

第8回近畿産業医部会研修会実行委員長
新日鐵(株)広畑製鐵所 産業医 本岡 康

平成15年6月28日(土)、日本産業衛生学会近畿地方会・産業医部会主催の第8回近畿産業医部会研修会を兵庫医科大学に於いて開催いたしました。メインテーマは「嘱託産業医の地域産業保健活動」で、約200人の参加者が熱心に聴講しました。冒頭、堀口俊一会長は、戦前から今日に至るまでの産業保健の歴史を紹介され、地域産業保健活動は地域保健の連携として取り上げられる重要なテーマであると開会挨拶されました。

まず、島田泰明氏(尼崎医師会産業医部会長)の座長進行で、演題「最近の労働衛生行政について」で辰巳吉常氏(兵庫労働局労働基準部労働衛生課長)、続いて「最近のウイルス肝炎の動向」で奥新浩見氏(姫路赤十字病院内科部長)の特別講演がありました。辰巳氏は、労働衛生の概況をコンパクトに解りやすく説明され、行政のじん肺・肝炎対策・過重労働・メンタルヘルス等に対する取り組みを披露されました。奥新氏は、GPT上昇は肝臓の病態悪化をパラレルに示すものではないという話から始められました。肝炎ウイルス自体は肝細胞を壊さないものであり、肝炎ウイルスの癌を作ろうとする性格の悪さによって、C型肝炎ウイルスからの病態を解説されたのは、興味深いものでした。

続いてシンポジウム「嘱託産業医の地域産業保健活動の現状と問題点」が開催されました。50人以上の企業の嘱託産業医、50人未満企業の従業員に対する地域産業保健センター、その活動を支援している地域医師会に焦点をあて、和辻瑞彦氏(兵庫県医師会産業保健委員会委員長/医師会)・西脇司郎氏(連合神戸地域協議会議長代行/組合)・東健朗氏(神戸西労働基準協会衛生部会長/使用者)・黒田佳治氏(尼崎医師会理事/産業医)の4シンポジストにそれぞれの立場で現状と問題点について述べてもらいました。和辻氏は、兵庫県および姫路市医師会の現状を提示され、その活動の地域差・産業保健サービスの格差・従事者のマンパワーの少なさ等に言及されました。西脇氏は労働環境の変化を踏まえ組合として健康諸問題に取り組む活動の重要性を、東氏は西神戸地区の現状から求められている事業主像・産業医像を示唆されました。黒田氏は、尼崎地域産業保健センターの活動を通して、健診受診率向上・安全衛生推進者選任率向上等の成果と、人・費用・認識不足の問題点を示されました。最後に座長の徳永力雄氏(関西医科大学衛生学教授)から、問題点として上がってくる内容は以前と同様だが、質が徐々に高まって前向きな姿勢に変化してきていると、統括していただき研修会を終えました。

産業医部会・健康スポーツ医学委員会合同研修会

合同研修会パネルディスカッション座長
大阪府医師会理事・産業医部会副会長 酒井 英雄

今回はじめて産業医部会・健康スポーツ医学委員会の合同研修会が開催された。

本来産業医活動をしていく上で、定期健診後の事後措置としての保健指導は重視されなければならない。とりわけ運動指導は健康増進法からみても強調されるべき任務である。今回この意味で合同研修会が行われたことは大きな意義がある。

パネルディスカッションは4人のパネラーより構成され、まず産業医の立場から佐野敦氏(松下電子部品(株)本社健康管理室所長)より、事業場内で運動をする動機づけをし習慣化する事で行動変容に至ったことへの評価を、また事業場外施設との連携として、トレーナーの樋口与子氏((株)フィットネス研究所)から、運動プログラムの作成と運動を続けた評価を中心に、健診データの管理から健康測定を行い目的・優先順位の決定をするとの説明を受け、その後、運動指導にあたっての留意点として、心疾患を考慮する立場から木村穰氏(関西医科大学第2内科心臓血管病センター助教授)より、そして、運動器障害と予防の立場から堀部秀二氏(大阪労災病院スポーツ整形外科部長)に講演して頂いた。

ディスカッションにはいり、基調講演の藤井曉氏(大阪市立総合医療センター総長)にも加わって頂き、運動指導の際、体力測定をして運動後の数値評価が大切であり自覚症状のない人々にいかに動機づけをし、運動指導の内容を工夫する必要がある、トレーナーや栄養士・コメディカルのスタッフがデータを共有することの大事さが指摘された。また、産業医が運動指導をすすめる上でキーパーソンである事が明らかにされた。

肥満者に対する運動指導では、運動器障害を予防する面でも食事療法で体重を減らしてから行う事、グループを作って行うと脱落者が少なくなるとの有益な指摘もされた。

結論では、運動の動機づけはできても習慣化することが困難であること、そのために、日常生活全体をふりかえって生活のなかで何ができるのか自己決定してもらい、その上で運動プログラムを作成する事が有効で、すこしでも運動をすることが大事である事が確認された。



報 告

近畿産業看護部会平成15年度特別研修会

三井化学(株)大阪工場 健康管理室
保健師 堤 梨恵

7月26日大阪産業保健推進センターとの共催で、特別研修会が大阪産業保健推進センター会議室にて開催された。テーマは、「SARS(重症急性呼吸器症候群)について」、講師には大阪労働衛生総合センター所長の杉田隆博先生を迎え、産業看護職等の参加は27名であった。講演は始めに先生の実体験をふまえながら大阪市における感染症の歴史が話され、明治時代においてはコレラが感染症の約6割を占めていたこと、感染予防のための防御は今と変わらない予防服を着た医療職の姿が写真で紹介され、グラフ等を織り交ぜながら興味深い話が多かった。

わが国における感染症は衛生水準の向上等により克服されていたかにみえていた。しかし、海外旅行に類発する熱帯性疾患の輸入症例、動物等から感染するものといった新しい感染症への対応が迫られており、感染症を取り巻く環境は厳しさを増している事が話された。次に本題であるSARSについては、SARSコロナウイルスによる感染症であり、また、医療職関係者や同居の家族等がSARS患者に濃厚な接触をした場合に感染する、38度以上の熱、10日以内に中国等の流行地域からの帰国あるいは、SARS患者との接触といったSARSが疑われる場合の具体的な症状が示された。加えて、平成14年11月から平成15年7月11日までの集計では、死亡率は約9.6%であり、推計死亡率は14%~15%であること、65歳以上の死亡率は約50%にのぼるであろうということが示された。

予防対策としてはマスク・手洗い等が勧奨されているが、講演では外科用マスク、N95マスク、手洗い等の有効性が示された。なお、飛沫感染によるため大部分の患者はMedical Staffであり、明確な治療法が確立されていない現在、SARS患者に曝露された医療従事者に対するCDC指針等に代表される具体的な予防対策の重要性が示唆された。会場からの質問「今冬、SARS患者が増えると予測されているがどう対応すればいいか」には、迅速な診断(インフルエンザとの識別)、職域におけるリスクマネジメントの必要性、適切な情報源の入手方法等が必要であると回答戴いた。大変有意義な情報が得られた研修会であった。

近畿産業看護部会第1回研修会
メンタルヘルス研修に参加して

出版物取次 (株)大阪屋 総務人事部人事課
看護師 押本 みどり

平成15年度近畿産業看護部会の第1回研修会が大阪産業保健推進センターと共催で、8月19日、メインテーマ『メンタルヘルスー職場における指導ー』として、講師戸田玲子先生をお迎えしドーンセンターに於いて開催された。今回は「ストレスチェックとリラクゼーション」を中心とした話で、出席者98名うち、産業看護職36名であった。はじめにリラックス運動からはじまり、『事業場における労働者の心の健康づくりのための指針』の概要・経緯説明から「メンタルヘルスケアは中長期的視点に立って、継続かつ計画的に行われるようにすることが重要である、すぐに結果数値はでない、待つ姿勢が大事である」と聞いた。その後、個人へのストレスの「気づき」・職場環境の判定など、ストレスの要因を見つける方法の一つとして活用される「ストレスチェック」を実施。私は、午前中仕事でエキサイトし、午後この研修に望んだので、以前に行った結果と違い、「あちゃ!」とばかり反省しきりではあるが、そこはテーマをしっかり受け止め、「気づき」を促されて帰ってきた次第である。

産業保健の仕事は、三管理(作業環境管理・作業管理・健康管理)を基本に多岐にわたっている。今後重要になる「メンタルヘルス」を、厚生労働省の指針を基に対策に取り組む中で、まず正しい知識とメリットを会社にアプローチする必要がある、その材料として①行政や各団体実施の研修に参加し情報提供する、②休業・勤怠状況等の把握、③健診集計結果報告、④職場巡視報告等。それらから、当事業所に即した形で実施可能な部分から取り組み、一步一步積み重ねて行くことである。

当社でも「ラインケア」研修を実施したが、今後も計画的に継続し体系化できればと考えた。

講義の中でも触れられていたが、「管理監督者自身のメンタルヘルスは、どないしてくれるんや!!」との声が当社の研修時にもあった。管理職への責務が重くなっている社内状況でもあり、リラクゼーションの方法等も具体化が急がれる。講師からの書籍紹介で、著者竹脇無我さん『壮絶な生還・うつ病になってよかった』(マキノ出版)について、森繁久彌氏からの手紙に興味を持ち、研修の帰りに購入し、一気に読み終えた。

最後に、産業保健はテンポが速く新しい情報に振り回される中、この近畿産業看護部会の研修を利用し自己研鑽につとめている。知り合った産業看護職をはじめ、参加者や先生方からのパワーをいただき、会社へ情報提供して必要性を「アピールするぞ!!」と、気持ちを一新した。

お知らせ

産業衛生講座

●第23回講習会 (申込受付中)

日 時：平成15年10月25日(土) 13:30～16:30

会 場：大阪市立大学医学部学舎 4階大講義室

講 演：I. 事業場における作業環境管理

講師 増田安民 (松下電器産業(株))

II. T H Pの取り組みにおける現状と課題

講師 原 俊之 (三菱重工業(株))

●第24回講習会 (1月5日より申込受付開始)

日 時：平成16年3月6日(土) 13:30～16:30

会 場：大阪市立大学医学部学舎 4階大講義室

講 演：I. 職域における生活習慣病と健康教育

講師 広部 一彦

(みずほ大阪健康開発センター)

II. 有機溶剤による健康障害とその予防

講師 郷司 純子 (兵庫医大)

カリキュラム：日本医師会認定産業医制度産業医学研修会
基礎(後期) / 生涯(専門) 3単位

受講料：講習会 未登録者 6,000円(テキスト代込み)

講習会 登録者 2,000円

定 員：270名(先着順)

申込先：FAX 06-6266-2181 (丸紅健康開発センター内)

申込方法：「産業衛生講座第〇回講習会」受講希望と
明記し、以下の必要事項を楷書で記入の上
F A Xでお申し込み下さい。

1. 氏名(ふりがな)
2. 受講票送付先(〒・住所・TEL・FAX)
3. 所属地区医師会(医師のみ)
4. 日本産業衛生学会 学会員か否か

近畿産業衛生学会職業性筋骨格系障害研究会共催
日本産業衛生学会腰痛・頸肩腕障害合同研究会
-日韓の経験から作業関連運動器障害対策を展望する-

日 時：平成15年12月13日(土) 10時～17時30分

会 場：大阪市立大学 医学部学舎・6階中講義室
プログラム

1. 一般演題(午前・募集中)
2. 教育講演
「上肢の痛み
-整形外科関連疾患の臨床診断-」
奈良医大整形外科・矢島弘嗣先生
3. 特別講演
「わが国における作業関連運動器障害対策の
歴史と展望」
関西医大衛生学・徳永力雄先生
4. 特別講演
「韓国における作業関連運動器障害対策の歴
史と展望」
(日本語による講演です)
Department of Occupational and Environmental
Medicine, Ulsan University. Yangho Kim先生
5. 総合討論

資料代：1,000円(当日、会場でいただきます)

連絡先：knorio@naramed-u.ac.jp

(奈良医大衛生学・車谷典男)

第61回産業疲労研究会
-第8回作業条件チェックリスト研修会-

日 時：平成15年12月12日(金)および13日(土)

会 場：12日 チェックリスト研修会
京都プラス精機(株)京都府峰山町13日 定例研究会
京都国立近代美術館 1階会議室

主な内容：13日

10:00～13:00 一般発表

14:00～15:30

特別講演：「日本の労働文化」

-日本人はなぜ倒れるまで働くのか-

講演者：河合隼雄(文化庁長官)

一般発表演題を募集中です。詳細は、研究会ホーム
ページを参照下さい。<http://square.umin.ac.jp/of/>なお、本研究会は、関西元気文化圏参加事業として
登録しています。

連絡先：hygiene@sta.tenri-u.ac.jp

(天理大学 近藤雄二)

産業医、事業主等の皆様へ

産業保健活動を応援します

大阪産業保健推進センター業務案内

- ◎窓口相談・実地相談 ◎情報の提供
◎研修 ◎調査研究 ◎広報・啓発

産業医、保健師、企業の産業保健活動に携わっている方々の、
ご利用をお待ちしております。
相談内容等についての秘密は厳守し、原則として無料でご利用できます。
詳細は当センターまでお問い合わせください。

大阪産業保健推進センター

〒541-0053 大阪市中央区本町2丁目1番6号 堺筋本町センタービル

TEL 06-6263-5234 FAX 06-6263-5039

ホームページアドレス <http://www1.biz.biglobe.ne.jp/sanpo27/>Eメール sanpo27@mvp.biglobe.ne.jp

会員の声



肥満予防の必要性

関西医科大学 衛生学

甲 田 勝 康

本年2月に浜松医科大学公衆衛生学から関西医科大学衛生学に転任しました甲田でございます。近畿地方会への参加は今回が初めてで、今後、よろしくお願いたします。

さて、最近の労働者の定期健康診断の結果をみますと、血圧および肝機能検査の有所見率はそれぞれ約10%、血中脂質検査は約20%、肥満や体重増加に関連する軽度の高脂血症や脂肪肝などが増えております。肥満や動脈硬化は虚血性心疾患や一部の悪性腫瘍と関連し、これらの生活習慣病を予防することは産業衛生活動においても重要であります。予防法のひとつに摂取エネルギー量と消費エネルギー量の適正化があげられ、運動指導や栄養指導が大企業などではおこなわれています。しかし、零細企業等での対応は遅れており、浜松医科大学で行ってきた静岡県下での調査でも自営業等に肥満や高血圧が多く

みられております。

ところで現在、世界には二つの栄養不良が存在します。WHOの2000年の推計によると、約12億人は摂取エネルギーとタンパク質が不足し、逆に、約12億人は摂取エネルギーが過剰であります。慢性的に飢餓状態にある人の数は7億9000万人であります。ここ数年は穏やかに減少しています (FAO)。これに対し、過食は増加の一途をたどり、肥満の急速な増加を「見過ごされている今日最大の公衆衛生問題のひとつ」とWHOは警鐘を鳴らしています。

これまで行ってきた静岡県下の小学生の調査によると、最近10年間で肥満児童の割合は現在も増加を続け、更に児童の血清の総コレステロール値も増加を続けています。小児期に肥満や高コレステロール血症を示した者は成人になっても肥満や高コレステロール血症を示すというトラッキング現象も報告されていることから、現在の小児の肥満や高コレステロール血症の増加は、数十年後の我が国における成人の疾病構造を予測させるものともいえます。

生活習慣が欧米化した我が国においては、将来ますます肥満が増加する可能性があり、学校保健と地域保健、さらに産業保健が連携し、栄養指導や運動指導が行われることを期待したいと思います。



府立公衛研の機構改革

大阪府立公衆衛生研究所
生活環境部・生活衛生課

熊 谷 信 二

私の勤務する大阪府立公衆衛生研究所は本年4月1日付で大幅な機構改革がありました。これは大阪府の財政難がひとつの要因であり、研究所全体で研究員の人数が2割以上削減されました。同時に、組織の見直しがあり、私の所属していました旧労働衛生部は旧公害衛生室と合体して生活衛生課となり、そこでは産業保健、家庭用品・住居衛生、公害衛生の3つの仕事を行うことになりました。旧労働衛生部は、1946年に府立産業医学研究所が設立されたことに端を発します。その後、1948年に府立労働科学研究所と名称が変更され、さらに1960年に府立衛生研究所と合併して府立公衆衛生研究所となり、産業保健の仕事はその中の一部門（労働衛生部）で行われ

てきました。このような変遷を繰り返すたびに、産業保健に従事する研究員の数が減り、今回の機構改革により生活衛生課の一部門になってしまいました。

今回の産業保健分野の縮小の大きな原因は財政難ですが、もうひとつは労働行政が国の所管であることがあげられます。つまり、大阪府行政としては、産業保健は府の責務ではないと考えているわけです。しかし、大阪府には中小企業が多く、劣悪な作業環境下で働いている勤労者がたくさんおられます。このような勤労府民の健康を守ることは自治体の重要な責務だと言えます。このような観点から、生活衛生課に産業保健の仕事をセーフティネット的に残すことになりました。

旧労働衛生部では、梶原三郎先生、三浦武夫先生、原一郎先生をはじめとして、多くの先輩方が大阪府下の産業現場での課題を解決するとともに、全国的にも活躍されてきました。新しい生活衛生課としても、このような伝統を引き継ぎ、産業現場の問題にかかわる中から再生していかなければならないと考えておりますので、今後とも、皆様方のご指導をよろしくお願いいたします。

会員の声



生活習慣はかえられない

松下電器産業(株)
ホームアプライアンス社奈良 産業医

高田 康光

緑があり勤務医から専属産業医の仕事につき6年がたちました。生活習慣病の予防活動ができると自負し転職しましたが、現実には厳しいものでした。喫煙、飲酒や歩かない生活スタイルなどの習慣は容易に変えられないことに気づかされたのです。これまでは病院受診された方が禁煙に成功したり運動するようになると、我々の保健指導効果があったように錯覚していました。ところが職場ではそれがほとんど成功しません。問題を抱えてどうにかしよう、変わろうと思っている人は他の人の助けはあるものの自身の生活習慣を変えることができます。けれども、健康診断の結果などから他人に悪い習慣を指摘されてそれが変えられるのは、おそらく小学生の低学年ぐらいまでではないでしょうか。自動販売機やコンビニ

で24時間手軽に安く物が手にはいり、好きな時間に移動できるみかけの自由を満喫していると変わることは難しいのでしょうか。

松下グループでは今年、職場の「健康日本21」活動として健康増進法施行にあわせ社内禁煙デーを実施しました。勤務する職場安全衛生委員会からも禁煙マラソンへの参加呼びかけ、会議禁煙の徹底が発信されました。これは世の流れが職場を初めて動かし大きな変化と感じています。禁煙デーには900名あまりの喫煙者のうち42%が、禁煙マラソンには女性を含む55名が挑戦し、そのうち29名が健康管理室スタッフのサポートもうけ禁煙に成功しました。禁煙の動機では丁度タイミングよくなされたタバコの値上げとともに、男性の場合、娘との約束や孫への遠慮などがあげられました。娘には弱い父親像が禁煙動機に関係していたのです。医療者でなく家族などその人が大事に思っている方の意見があると生活習慣は変えられるのかもしれませんが。最近では病気だからリスクがあるからといって禁煙をむやみに勧めるのはやめました。健康測定などで歯科衛生や運動習慣の話題をとりあげ間接的に本人が自ら禁煙したくなるような動機づくりやその人のキーパーソン探しを行う受身の健康管理に徹し、変えられないものにはこちらが変わることを試しています。



保健師10年目の私の想い

(財)社会保険健康事業財団
和歌山県支部 保健師

滝澤 美恵

私が所属する(財)社会保険健康事業財団は、政府管掌健康保険被保険者等に対して健康診断等を通じて健康支援事業を行っています。主に私たち保健師は、健康診断を受けられた方を対象に各事業所を訪問して健康教育(個別相談や集団学習)を実施しています。

事業主の理解を得て、勤務時間中に職場で健康教育を実施するため、面接時間及び面接回数に限界が生じます。仕事を始めた頃は、「年に1回、約20分の面接で何ができるのだろう」と、思っていました。継続しているとはいえ年に1回の関わりの中で、相談者の健康支援をしていくためには、どういった関わりがよいのか、何ができるのだろうか悩みました。

今、私たちが直面している“生活習慣病”は名前の通り、生活習慣の影響が大きいものです。生活習慣は長年

積み重ねてきた習慣で、簡単には改善できるものではないため「わかっちゃいるけど、やめられない」というケースが大半です。生活習慣を変えるには、本人の自己意思決定ができるかどうかにかかっています。しかし、私達が出会う方々は、知識や情報が無くて行動変容ができないのではなく、知識はあるが、自分の価値観の中で“健康づくり”の優先度が高くなく、また自覚症状もほとんどないので、健康危機感も少ない場合が多いです。そこで、私は、健康教育場面において、単に一方的な情報の提供は避け、健康教育を通じて相談者が自己決定できることを目指していくことが必要だと思っています。併せて、健康教育の場面で、相談者が自分の健康状態を理解し、生活習慣を振り返り、自分の健康観を考える時間になるよう苦慮しています。そうすることにより、自ずと相談者の生活習慣が改善され、また健康相談を継続実施することにより健康診断の結果の改善が見られ、保健師の醍醐味を感じることができそうです。

相談者はひとりひとり、健康状態も違えば生活状況や価値観も異なります。自己決定に至るきっかけも様々です。一律ではない分、非常に難しい関わりですが、私は、いろいろな人に出会い、「健康」をテーマにその方々の思いや考えを伺うことができるこの仕事が、とても魅力的であると感じる今日この頃です。

近畿の産業保健活動—奈良県—

当県における産業保健活動の問題点

奈良県医師会産業保健担当理事
奈良県医師会産業医部会長



塩見 俊次

奈良県医師会の産業医部会について述べさせていただきます。

現在、部会に属する会員数は511名と、当医師会の各部会のなかでは内科部会に次ぐ規模となっております。そのうち約400名が日医認定産業医の資格を有し、現在も毎年着実に資格取得者が増え続けています。とくに若い会員、勤務医の増加が目立ちます。研修会については毎年10回以上開催されており、最近では奈良産業保健推進センターの協力の下に過重労働やメンタルヘルスに関する講習も積極的に開催しています。

当県における産業医の活動については、他の府県とよく似た問題を抱えています。

まず第1に活動の場が少ないことが挙げられます。これは県内の事業場のほとんどが小規模事業場であり、とくに家内工業的な事業場が圧倒的に多いことによります。一部で共同選任事業も活用されているようですが、まだまだ不十分かと思われます。とくに昨今の不景気により経営状況が芳しくない事業所も多く、従業員の健康管理まで手が回らないという声も聞こえます。50人以上の事業所については奈良市を中心とした北部に偏っていることから、県内に設置されている4つ、すなわち北和、葛城、桜井、南和の各地域産業保健センターに登録されている産業医のうち、北和においては約50%が選任されていますが、他の地域での選任率はきわめて低いのが現状です。都会とは比較になりませんが大規模事業場もいくつか存在しており、近年では南和地域に工業団地が造られ企業の誘致も盛んに行われています。しかしながら、これらの企業、事業場は本社が大阪など県外にあることが多く、地元からの産業医の選任はほとんど行われません。このようにマンパワーは十分であるにもかかわらず、残念ながらまだそれを生かせる状況にはありません。

また事業所による産業医の選任届けは、選任時に一度だけ労働基準監督署に提出すればよく、それ以後も引き続き産業医として従事しているかどうかの把握が困難です。したがって現在実際にどれだけの数の産業医が活動しているかを調査する必要がありますが、医師会として取り組む必要があると考えています。

産業医として事業所と契約する際に契約書を作成しているかどうか、またその内容が十分なものであるかどうかなどの点もはっきりとは把握できません。トラブルを引き起こさないためにも是非適正な契約書を作成していただきたい。

過重労働に関しては昨年指針が発表され、一定以上の時間外労働を行った労働者については地域産業保健センターによる相談等の関与が規定されましたが、奈良県においては現在までに事例の報告はありません。

一方メンタルヘルスに関しては、専門家の数がきわめて少なく、種々の事業において専門医にかかる負担が大きくなっているのが現状です。精神科の産業医の育成が急務と考えています。事業所においてもメンタルヘルスに関してはかなり需要があると思われますが、産業医を複数選任するのは現状では難しく、一人の産業医に心身共に対応できるように求められています。そのためには産業保健推進センターの協力を得て、多くの産業医が自分の専門範囲を超えてメンタルヘルスに対応できるよう研修を進めていきたいと思えます。

次に地域産業保健センターの活動についても触れておきたいと思えます。県医師会の担当理事として各センターの運営委員会に出席していますが、それぞれの地域性や特性に基づいて活動されている状況がよく理解できます。臨床検査センターを運営している地区医師会と連携し相談事業を充実させているセンターや、コーディネーターの資質の向上を図り事業所訪問の回数を飛躍的に向上させたセンターがあり、情報の交換を行いながら活性化に努めています。

以上、当県の産業保健活動は多くの問題点を抱えてはいますが、今後見込まれる労働人口の減少や勤労者の高齢化などに的確に対応すべく努力を続けていく所存です。

会員の異動 (平成15年4月1日～8月31日届出分:届出順)

退会

木村 絹子	森 英機	海老原泰代
青山 善助	後藤 和彦	菖蒲 祐子
菱沼 繁道	清水 正樹	古株ひろみ
山下 五郎	小松 真吾	宮脇 郁子
小林 明美	勝呂 元彦	伊藤 篤
久次米律子	辻 久美子	上野さおり
北岡 治子	中家 和子	南 又一郎
岡田 守仁	森岡 洋美	水野真由美
市谷 迪雄	北村 修一	辻本 豪
松岡季代子	鴨川 通子	濱中 良郎
石塚 千鶴	松永 一朗	田崎 慎子
日吉 基文	山村 喜一	

入会

小森 友貴 (洛和会音羽病院)
 坂野 雅子 (三菱電機(株)関西支社健康管理センター)
 藤岡希久代 (保健師)
 中澤 典栄 (松下産業衛生科学センター)
 北川 絃子 (松下産業衛生科学センター)
 小谷 光一 ((株)オートボックスセブンオートボックス大阪健康センター)
 久森 敬次 ((株)オートボックスセブンオートボックス大阪健康センター)
 中山 直美 (岸和田徳洲会病院)
 湯木 知史 (京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康要因学講座環境衛生学分野)
 木曾奈央子 (関西日本電気(株))
 住田 恵 (不動建設(株))
 仲岡 裕右 (大阪鉄道病院保健管理部)
 金岡 智博 (滋賀医科大学予防医学講座(大学院生))
 井上ユカリ (オムロンソフトウエア(株)本社)
 吉岡 節子 ((医)可見放射線科検診部健康診断サービス)
 横川 朋子 (関西労災病院健診センター)
 山口満喜子 (大阪鉄道病院保健管理部)
 矢崎 和美 (松下健康管理センター)
 伊藤 美和 (松下健康管理センター)
 中屋敷 博 (岩谷産業(株)大阪本社健康管理室)
 鹿毛 俊孝 ((有)エムアンドアイ経営開発)
 安井 史郎 (松下産業衛生科学センター)
 大槻 和子 (ウエスト電気(株)長田野工場)
 前田 友希 (松下電器産業(株)松下ホームアプライアンス社奈良健康管理室)
 秋月 克彦 (石切生喜病院)
 金政 健 (近畿大学医学部高血圧・老年内科)
 今井 順一 (洛和会音羽病院)
 二永 英男 (八尾徳洲会総合病院)
 喜多村昭子 (天理よろづ相談所付設天理医学技術学校)
 上田 慶子 (天理医学技術学校)
 黒田 和美 (田辺製薬(株)大阪工場管理部)

再入会

勝田 昌俊
 奥見 敏彦 ((医)奥見診療所)
 戸谷 由美
 和田ゆき恵 (松下電池工業(株)健康管理室;旧姓:乙部)
 佐藤 末美 (大阪鉄道病院保健管理部)
 中島美繪子
 辻 篤子 (大阪鉄道病院保健管理部)
 野崎 利江
 岡田 芳春 (岡田クリニック)
 高祖 愛子 (松下電工(株)本社)
 田中 真理 (花王(株))
 海野 勇造

所属変更

藤本 眞一 (滋賀県草津保健所;中国地方会より)
 金森 雅夫 (びわこ成蹊スポーツ大学生涯スポーツ学科;東海地方会より)
 岡部 美希 (中央労働災害防止協会大阪労働衛生総合センター健康管理室;関東地方会より)
 針原 重義 (大阪社会医療センター)
 松井 利仁 (京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻;北海道地方会より)
 北村 義久 (さわやか歯科)
 佐藤 茂秋 (兵庫県立加古川病院)
 池上 陽一 (松下産業機器(株))
 原田 裕治 (国立病院東京災害医療センター;関東地方会へ)
 保木 昌徳 (近畿大学医学部奈良病院小児外科)
 中野 修治 (東芝ヒューマンアセットサービス(株)姫路工場保健センター;関東地方会より)
 堤 梨恵 (三井化学(株)大阪工場健康管理室;関東地方会より)
 赤築秀一郎 (ダイキン工業(株)滋賀製作所;九州地方会より)
 平賀 誠三 (第一生命大阪医務室;中国地方会より)
 吉岡 佳子 (松下電子部品(株)松阪健康管理室;旧姓:竹本;東海地方会へ)
 柳井 康 (中外製薬(株)人財・人事部;関東地方会へ)
 西尾千鶴子 ((株)レナウン大阪総務課医務室)
 田井中秀嗣 (大阪府立看護大学)
 土田 忠 (健康保険淀川診療所退職)
 小野 千恵 (神戸市看護大学看護学研究科)
 高橋 鈴子 ((株)松下電器共済会)
 吉田 博昭 (松下興産健康管理室)
 山村 ユリ ((株)松下電器共済会)
 松澤 佑次 ((財)住友病院)
 辻川 恵美 (関西大学保健管理センター事務局)
 山内 恒幸 (中央労働災害防止協会 大阪労働衛生総合センター分析測定室;関東地方会より)
 和田 博子 (松下電器産業(株)本社技術部門守口地区健康管理室)
 濱田 眞彰 (広野高原病院)
 福江 香織 (松下電器産業(株)パナソニックAVCネットワークス社南門真健康管理室)
 奥田 潤子 ((株)ダイフク)
 森本 恵子 (三菱電機(株)関西支社健康管理センター;九州地方会より)
 山田 達治 (三洋電機大東産業保健センター;関東地方会より)
 田村 仁美 (三菱神戸病院;九州地方会より)
 河津雄一郎 ((財)京都工場保健会;九州地方会より)
 江口 尚 ((財)京都工場保健会;九州地方会より)



日本産業衛生学会
 近畿地方会

日本予防医学協会 <http://www.sunnet.or.jp>

本 部 東京都江東区鶴橋 1-21-25 TEL 03-3649-3651
 東 日 本 支 部 東京都江東区鶴橋 1-21-25 TEL 03-3649-6111
 関 西 支 部 大阪市北区西天満 5-2-18 TEL 06-6362-9041
 西 日 本 支 部 福岡市博多区博多駅前 3-19-5 TEL 092-473-0547
 名古屋出張所 名古屋市東区代官町 39-18 TEL 052-931-0526
 茨城連絡事務所 茨城県鹿嶋市大字光 3 TEL 0299-82-7736

- 村上 朋絵 (九州地方会より)
- 村山留美子 (京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻環境衛生学講座; 関東地方会より)
- 赤築 綾子 (三井化学(株)大阪工場健康管理室; 九州地方会より)
- 田中 佐保 (松下産業衛生科学センター東京支所; 旧姓: 金井; 関東地方会へ)
- 中西 秀信 (旭化成(株)大分工場あいばの試験所)
- 名和 清彦 (高砂西部病院産婦人科; 北海道地方会より)
- 東 一夫 (医)親愛会あずま医院)
- 辰 吉光 (オムロン(株)草津事業所)
- 木下 麻子 (松下冷機(株)冷蔵庫事業部健康管理室)
- 石渡 淳一 (いしわたクリニック)
- 増田 将史 ((財)和歌山健康センター)
- 木村 隆美 (松下電器健康保険組合松下健康管理センター健康松下21推進室)
- 西尾 正一 (弥栄町国民健康保険病院)
- 清田 敦彦 (公立忠岡病院泌尿器科)
- 坂手 誠治 (滋賀県立大学大学院 (学生))
- 田邊 淳 (恵泉会メディカルモール画像検査・内視鏡センター)
- 中川 克也 (陸上自衛隊衛生学校; 関東地方会へ)

- 4. 地方会ニュース読者アンケートについて
編集委員長の岡田理事より、地方会ニュースの読者アンケートをとることの是非が提案され、原案を一部加筆することで承認された。
- 5. 産業看護部会幹事移動について
植本部長から、今後の発展を踏まえて5名の新しい産業看護部会幹事が増員されたことが報告された。
- 6. その他
(1) 平成16年度産業衛生技術部会総会開催について
河合幹事より、本年10月29日の産業衛生技術部会幹事会で来年大阪で開催される安全衛生大会の中日を産業衛生技術部会として開催することを審議する予定であると報告された。
(2) 功労賞受賞者推薦について
平成16年度受賞者として、近畿地方会から住野公昭先生、阪上皖庸先生を推薦してはとの提案が出され、審議の結果出席幹事一同の賛成を得た。

名称変更

- 岡本 希 (旧姓: 尾方)
- 行本 美保 (旧姓: 榎木)
- 吉田 宗平 (関西鍼灸大学神経病研究センター)
- 柳 元和 (東大阪大学短期大学部)
- 竹山 恭子 (旧姓: 小野)
- 津田 恵理 (パナホーム(株))
- 加藤 純子 (松下電器(株)PAVC社北門真健康管理室; 旧姓: 近藤)
- 吉田 貴子 (旧姓: 三宅; 東海地方会より)
- 福原 俊一 (医療疫学)
- 坂口 俊二 (関西鍼灸大学)
- 村林由利子 (旧姓: 下間)
- 岡田 邦夫 (大阪ガス健康開発センター)

議 事 録

平成15年度第2回定例幹事会

日 時 平成15年9月29日(月) 17:30~19:00
 会 場 大阪市大医学部学舎 18階 会議室
 出 席 堀口 植本 藤木 圓藤 岡田 原 住野
 河合 宮下 上田進 大脇 杉本 山田 清田
 大東 石山 (計16名)
 欠 席 車谷 河野 西村 長澤 日高 道辻(計6名)
 事務局 清田 (敬称略、順不同)

議 題

- 1. 理事会報告
圓藤理事より、定款改正が終了したので、それに伴う理事の選挙について作業部会を立ち上げる必要があるとの報告がされ、委員が推薦された。
- 2. 第44回(平成16年)近畿産業衛生学会について
杉本幹事より、開催地は滋賀県で、学会長に滋賀医科大学の西山勝夫教授に依頼しているとの報告がされ、承認された。
- 3. 幹事欠員補充について
前兵庫医科大学教授の小泉直子先生の後任に、兵庫医科大学衛生学教室の井口弘教授が推薦された。

会員各位へアンケート調査 ご協力をお願い

近畿地方会では本紙近畿地方会ニュースを年4回発行しておりますが、此度、紙面内容のさらなる充実を目的に、会員各位へアンケート調査を実施する事となりました。

このような調査は公正を期するため、第三者機関が実施すべきものですが、かかる組織、機関が地方会には存在致しませんので、便宜的に当編集委員会がアンケート案を作成し、近畿地方会幹事会の審議を経て実施するものです。寄せられた回答は地方会事務局において集計し、読者の皆様へご報告すると共に、有効活用致したいと考えております。実情ご賢察の上、忌憚のないご意見を戴きますよう、ご協力よろしくお願い致します。

編 集 後 記

今年は6月から8月までずっと梅雨のような鬱陶しい日々が続くとともに、各地で大雨、土石流等による災害が多く見られました。また、冷夏の影響により農作物の生育不良、夏物商品の売上減等で産業界に大きなダメージを与えました。その反面、ヨーロッパでは例年にない猛暑が続き死者も多数出ています。暗いニュースが多い中、6万年ぶりの火星大接近、18年ぶりの阪神タイガース優勝と明るい話題もありました。

最近の産業保健活動につきましては、使用物質による曝露をいかに軽減するかという取組みから、建物や家具から発生する微量の有害化学物質(シックハウス)による影響や、喫煙問題、メンタルヘルス対策等、より質の高い快適職場環境の実現が求められているように思います。

(道辻)

編集委員 (五十音順)

大東正明、大脇多美代、岡田章(編集責任)、
 車谷典男、杉本寛治、日高秀樹、道辻広美、山田誠二

次 回 発 行 日 2004年1月15日
 (原 稿 締 切 日 2003年11月30日)